



田中彫刻記

でんちゅうちようこくき

第十二話 ～塑像の研究・後編～

Takashi
作 ©いとうたかし



はい、でもこの暮らには
花が咲くのでしょうか



苦労かけてすまない…



たつた郎達の暮らしは、
苦しくなる一方でした。

けんきゅうつくさくひん
研究で作る作品は、売るための
ものではないため、収入はありません。



いつか咲かせてみせる

納得がいくまで
やりきりたいんだ…



俣太郎は、心に決めた
 ことをやり通しました。
 この生き方を支えたのは、
 かつての恩師、
 禅僧の西山禾山と
 岡倉天心の言葉でした。



芸術の表現は
 理想にある

夢中になって仕事をしなさい

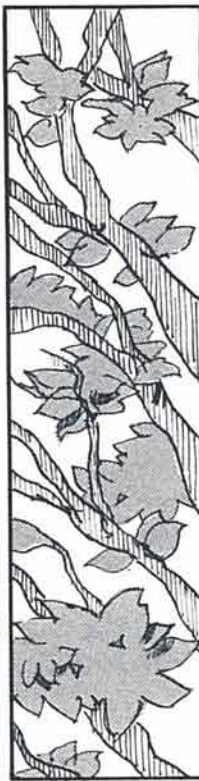
無心無我となつて本を読んでいる...
 それが仏の姿だよ



平櫛俣太郎は彫刻家としての名前を、
 美家の姓の田中を用いて
 平櫛田中としました。



そとこの頃から



塑像の研究は、3年間続きました。